

令和8年1月21日

別府大学及び別府大学短期大学部 学生の皆様へ

別府大学  
学長 友永 植

大短合同 学生との点検・評価会議及び授業改善を図るための会議を終えて

別府大学及び別府大学短期大学部における3ポリシー（卒業の認定に関する方針（DP）、教育課程の編成及び実施に関する方針（CP）及び入学者の受入れに関する方針（AP））を踏まえた取組に関し、その適切性について学生の代表の皆様から意見をいただき授業改善に役立てるため、学生の代表の皆様と教員等で点検・評価及び授業改善を図るための学生参加のFDにより意見交換を実施しましたので、主な意見及び改善に向けての取組を報告します。

なお、今後とも学生の皆様から意見をいただき、授業改善等に取り組んで参りますので、協力方よろしくお願いたします。

## 記

### 1. 学生代表者との点検・評価会議及び授業改善を図るためのFD

日時 令和7年9月20日(土) 13時～15時10分

場所 1号館21・22教室

### 2. 学生出席者

21名（大学15名、短期大学部6名、氏名は省略）

### 3. 教職員出席者

学長、学長補佐（教務担当・学生担当・就職担当）、学部長（文学部長・食物栄養科学部長・国際経営学部長、看護学部長）、短大副学長、学長補佐（教務担当・学生担当）、学科長（食物栄養科長、初等教育課長）、専攻科長、大学事務局長、短大事務局長、学生事務部長、事務局職員（5名） 計21名

以上

令和7年度学生との点検・評価会議及び  
授業改善を図るための学生参加のFDにおける  
「主な意見と大学の対応」

令和7年9月20日実施

	学生の要望・意見	大学の対応
①「本学の教育に関する3ポリシー」を踏まえた各種取組について		
1	カリキュラム・ポリシーの面で、他学科との合同授業があると視野が広がると思った。	教養科目を受講することにより他学科の学生さんと受講できるように科目を配置しています。専門科目になると難しい面もありますが、「学部共通科目」として部分的に実施しています。
2	「汎用力」の中の情報力について、必要な情報収集や分析力に課題があると感じる。正しい情報の調べ方がわからずに誤った情報を使用している学生が見られる。	本学では、「情報リテラシー」、「データサイエンス」にて情報収集や分析について学んでいます。また専門分野における情報収集や分析は、多くの卒論指導（ゼミ指導）にも取り入れられており、卒業時における満足度調査では比較的良好な結果を得ております。学年が上がるにつれて、徐々に身につけていくのではないかと考えられます。
3	看護学部は科目を詰めすぎだと感じる。3年生専門学校の時も講師を務めていた医師の先生方から、「専門時代は4時間かけていた授業を1時間でやってるんだよ」ときいた。一回一回の授業で教わる範囲が多すぎて、復習が間に合わない。期末テストが始まる1ヶ月前からテスト勉強を始めてもギリギリだった。 みんなテストが難しいと言っており、再試生が多いこともそのせいかもしれない。 我々学生の勉強が足りていないところもあるが、それ以前に大学のカリキュラムが詰めすぎなのではないかと感じている。国家試験に向けて、学習を定着させていく必要があるため、もっと時間をかけて看護学を学んでいきたい。	確かに、看護学部はカリキュラムが詰まっている感があります。実習の関係で、実習までに履修しなければならない科目が多いため、1, 2年次にやや集中しているところもあります。大学の授業構成は、シラバスにもあるように、事前・事後学習と授業から成り立っています。文部科学省により「1単位の授業科目について、授業時間外の学修時間も含めた45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」とされています。高校までのように授業だけで教育内容をすべて教授するというにはなっていません。授業では特に重要となる全体の基盤となるようなことを中心に組み立てられています。授業をよく聞いて、資料を見直し、事後学習を進めることで理解を促すことにつながると思います。授業の考え方の異なる専門学

		校と比較することに意味はありません。特に専門基礎科目は、これから学習する専門科目の基盤となる知識になります。基本的な人間の身体づくりや機能、疾患が身体に及ぼす影響をあらゆる側面から学ぶことで、その状況に置かれた対象に必要な看護を導き出すことができるようになることが重要です。専門基礎分野の知識は、その時は十分に理解できなくても、演習や実習で活用することで知識が定着するようになります。まずは、こつこつと地道に学習に取り組んでください。
4	また、アドミッションポリシーには「看護学を学ぶために必要な基礎学力をもち」とあるが、中学校の理科で習った内容を理解していないことが原因で、授業がストップすることもある。	入学前教育の課題の見直しや強化を図りたいと思います。
5	保育士、教諭にとってのスキルアップにつながる資格科目をさらに増やし、取得する機会を設けてほしいです。	スキルアップに繋がる科目については随時検討をしています。免許資格取得科目、卒業要件科目等の単位取得のための負担が多くなりすぎないことやCAP制を考慮し、学生に有益になる科目新設について考えていきます。
6	アドミッションポリシーの項目において初等教育科が求める学生像に意欲だけでなく、人間性の項目がないことに疑問を抱きました。	人間性については、人材養成に関する目的の第1として掲げているように、教育の最重要事項ととらえています。大学教育を通して人間性が陶冶されると考えています。ただし、短時間の入試および高校入学時点で人間性を評価することは困難であると考えており、アドミッションポリシーには項目を置いていません。
②「平成29～令和6年度の施設整備取組状況」について		
7	WiFi環境をより充実させて欲しい。	本学では、授業や自習での利用を想定し、教室や学習スペースを中心に無線LAN(Wi-Fi)のアクセスポイントを設置しております。そのため、屋外や通路などでは接続が不安定になることもありますが、学習に必要な

		<p>環境としては十分な通信速度を確保できるよう整備してまいりました。</p> <p>今後も学生の皆さんが快適に学修できるよう、利用状況やご要望を踏まえながら改善を検討してまいります。</p>
8	2号館4階と5階の女子トイレは和式トイレがあるため洋式トイレへの変更していただきたく思います。	和式トイレ利用者も考えられるので、一部和式を残しています。和式トイレの使用状況により判断したいと思います。
9	ゴミ捨て場の扉の立て付けが悪くすぐ外れてしまうことや、扉が開かないことがあります。また、カラスがゴミを荒らしていることがあるなど清掃が行き届いていないように感じました。	可燃ゴミと不燃ゴミを混在して捨てられているものがあり、ゴミ収集業者が収集できない場合があるようです。ごみの分別について学内への周知をします。また、ゴミ置き場の改修計画について、検討しているところです。
10	8月6日の時点で2号館の252の教室と、23号館の実習食堂・演習室のエアコンの調子が悪く一部稼働していませんでした。点検の程よろしくお願いいたします。	新機種と取り替えます。既に発注済のため、交換予定です。
11	34号館215教室や第一体育館のWi-Fiの接続が悪い（第一体育館は繋がらない）。	<p>34号館の各教室につきましては、ご指摘を受けてアクセスポイントの設定を見直し、現在は改善されていると思います。もし引き続き接続が不安定な場合には、メディア教育・研究センターまでお知らせいただけますと幸いです。</p> <p>また、第一体育館につきましては、運動・課外活動を目的とした施設であるため、インターネットの利用を想定した無線LANのアクセスポイントは設置しておりません。ご理解くださいますようお願いいたします。</p>
12	36号館の食堂の机がガタガタ揺れる。	調査確認のうえ、修理または取り替えを検討します。
13	2号館の252号教室のエアコンが壊れているため、快適に授業を受けることができません。	新機種と取り替えます。既に発注済のため、交換予定です。

14	友人の話を知ると 35 号館にエレベーターが欲しいという意見がありました。	現時点での設置計画はありません。設置の必要性について、学内での検討が必要です。また、設置場所、関係法令などについても検討する必要がありますので、検討したいと思います。
15	渡り廊下の増設	場所がわからないため、具体的な検討をしかねますが、特にコストの面で実現は難しいです。建て替え等が発生した際、考慮するよう努めます。
16	3 4 号館の車椅子用トイレは 1 階と 4 階のみで、他階利用時は移動に時間がかかり不便。各階に設置されると助かる。	設備面のため早急な対応は難しいが、全学的な方針として管理課に検討を依頼したい。現在、一部の棟には車椅子用トイレが設置されておらず、各棟に少なくとも一つは必要であり、中長期的に整備を進めていきます。
17	2 3 号館 1 階の女子トイレに設置されている音姫(トイレでの排泄音を流水音などでマスクし、プライバシーを守るトイレ用の擬音装置)が半年前から使えないので、改善してほしい。	場所を特定して、改善を検討するので、今後とも意見箱も活用してください。
18	3 2 号館のエレベーターはバックミラーや車いす用の操作盤がなく操作しづらいうえ、扉の開閉が早く危険なため、車いす利用者に配慮した設備を検討いただきたい。	エレベーターのバックミラー等は早急に確認し、対応を検討していきます。
③「学生満足度調査報告書（令和 6 年度実施）」について		
19	心のケアを支援する場所や仕組みが出来ていることは知っているが、匿名で利用できるオンライン相談の仕組みがあるか確認したい。	学生支援センターを昨年設立し、学生相談室のカウンセリングや予約はすべて守秘義務の下で行われ、プライバシーは保護されており、オンラインでの事前相談や予約については今後検討予定です。前期・後期のゼミ等を通じて、教員が学生の相談を学生支援センターにつなぐ仕組みがあるが、今年度後期からは、学生支援センター、キャリア支援センター、学生課、保健室などを統合した「学生総合支援機構」を設置し、入学時から就職支援・メンタル相談まで一元的に対応予定であり、相談体制の周知も強化していく予定で、人目を避けた相談方法も今後検討していきます。

④「学修支援及び学習環境」について		
20	グループ学習エリアの防音・仕切り強化をして欲しい。	39号館のラーニングコモنزの模様替えについては、図書館の利用も併せて検討したいと思います。
21	レポートの書き方や参考文献の使い方についてのガイダンスを充実して欲しい。	文系と理系とでは書き方が異なるため、導入演習、基礎演習等の演習科目で学科ごとに実施しています。食物は「アカデミックスキルズ」という科目でも行っています。
22	ラーニングコモنزは少し狭く、大きな机しか置かれていないため1人や少数では利用することに躊躇してしまうと感じました。飲食可能で気軽に自習が出来る施設がほしいです。	現時点では、3号館・36号館の学生食堂、32号館の学生ホールを利用して頂きたいと思います。
23	図書館の書籍が古いものが多い（専門書など）。また、課題が出た際に借りるのは早い者勝ちになっており、書籍が学生数に対し足りていないと感じる。	毎年、平均2,000冊の図書を新規購入しています。その他に学生図書購入用の「リクエスト用紙」、「図書館選書ツアー」もありますので活用してみてください。
24	学生ホールをよく使用する学生を多くみかけますが、学生の数が多いため、使いたい時に使えない学生も多くいると思います。ですので、学生ホールのような場所をもう一部屋作っていただきたいと思っています。	現時点では、学生ホールとして提供できる場所がありません。 3号館・36号館の学生食堂をご利用ください。また、授業が入っていない教室は空き教室としてご利用いただけます。ポータルサイトの「施設予約」⇒「施設予約照会」から空き状況を確認しご利用ください。
25	図書館は分かりませんが、ラーニングコモنزで大声で話をしている学生がたくさんいます。確かに勉強をするという名目で活用されている部屋では無いのかもしれませんが、時と場合に応じて態度を弁えるべきだと思います。ラーニングコモنزの使い方について注意を促すべきだと思います。	現在はラーニングコモنزに教員や職員はおりません。掲示物で指示したいと思います。大声で騒ぐなどをみかけた場合は、教務課にご報告下さい。
26	図書館のように、ラーニングコモنزにも横が見えない区切られた席があると集中しやすくなり、自習が捗ると思います。	39号館のラーニングコモنزの模様替えについては、図書館の利用も併せて検討したいと思います。
27	レポートの書き方支援については、テーマの具体化や焦点化を練習する機会を設け、「問い」の立て方や問題意識の育て方を指導してもらえると有益です。また、史資料の探索方法として、たとえば国会図書館デジタルコレクションの効果的な活用法を示してもらえると、調査の幅が広がります。	具体的なお意見をどうもありがとうございます。 専門分野におけるレポートの書き方で不明な点があれば、学科の先生に気軽に相談することができます。

	さらに、史料批判の方法についても学ぶ機会があれば、より深みのあるレポート作成につながると思います。	
28	図書館3階にある話し合いが出来るスペースは要予約だが、過日面接で利用しようとしたところ2人以上と言われたため、そのようなちゃんとした理由があればひとりでも利用可能にならないか。	グループワークに使用していただきたいという理由で、2人以上としていましたが、適切な理由があれば、単独での利用も可能だと思います。
29	勉強や課題をする時に使える空き教室がわかるようなシステムが欲しい。図書館では飲食ができないため、ご飯を食べながらというのが難しい。ラーニングコモンズや学生ホールでは席数が少ないため空いていないことが多く、友人と一緒に大学の空きコマの間に課題をすることが出来ず大学内をぐるぐるすることが多い。	学生ポータルから教室の空き状況を確認できます。 これまでも周知してきましたが、行き届いていない可能性もありますので再度周知を徹底いたします。
30	レポートを返却する際、一人一人に対しての具体的なアドバイスや改善点を教えてほしいです。	学生の皆さんが授業や学業に関する疑問等に対応するためにオフィスアワーを設定し、各教員が対応しているので気軽に研究室に相談に行ってください。
31	また、レポートを添削してもらえらる機関の設営をお願いしたいです。	
32	メディアセンターは利用者が多く、職員への相談が時間的に制約されることがある。SA制度はあるが、パソコンやネット環境の専門的な相談に対応できる人材の増員をしてほしい。	大学全体で相談体制や支援体制の充実を検討していきます。
33	図書館サークルでは利用者増を目的に、部員や教員おすすめ本の展示などを行っているが、借りるまでにはつながりにくい。学生サークルだけでは規模に限界があるため、読書会や展示の充実に加え、教員や学生からの意見も取り入れたい。	図書館利用者を増やすため、教員の推薦図書や授業連動での紹介が有効だが、借りることでつなげる工夫が必要であると考えられます。館内のカフェ風スペースや読書会などで入りやすい環境は整えているが、オンラインでの辞書・ジャーナル検索システム (JapanKnowledge、日経BP、朝日新聞集積版)などはまだ学生・教員双方が活用できていないため、周知を進めることで、利用促進を図っていきます。

34	図書館4階の書庫は貸し出し可能だが、整理が不十分で段ボールに入ったままの本も多く、実際の利用がしづらい。貴重な資料が活用されていない状況を改善してほしい。	大学の蔵書は約30万冊あるが、4階書庫には未整理の図書や希少本があり、閲覧は可能でも利用がしづらい。整理は職員が進めており、順次利用できるよう整備していく予定であります。
35	図書館には車椅子用トイレがなく、図書館利用中のトイレ移動が困難である。また車椅子利用者が図書館に入るためには、裏口から職員の補助が必要で、途中での外出やトイレ利用が制限される場合があるため、設備改善を希望する。	本館1階への段差が大きく、車椅子用スロープ設置は困難なため、現状は職員のサポートで2・3階への出入りに対応するしかない。車椅子用トイレの設置については、今後検討予定であります。
36	図書館利用者から、レポート作成や特定分野の調査時に貸出冊数が限られ、資料が不足することがあるとの声がある。併せて、「図書館選書ツアー」の具体的な内容についても確認したい。	図書館の選書ツアーでは、参加者が置きたい本や必要な資料を職員に直接伝えられる。レポート作成に必要な参考図書やレファレンスブックは、要望を出せば図書館予算で整備されます。各学科の図書委員や担当教員を通じて要望を提出でき、複数人が利用する資料は複数冊用意していきます。
37	学生ホールなど休み時間に過ごせる場所は便利だが、他の利用可能な教室やスペースを知らない学生も多い。空き教室検索システムの存在を周知することで、休み時間の過ごし方がより充実すると考えられる。	既に学生への情報周知は、掲示板、ポータル、入学時のオリエンテーションなどで行っているが、周知がなかなか進まない現状がある。学生側からも改善案や周知方法の意見をもらえると助かります。
⑤「授業改善」について		
38	各授業で「この授業を受けることで何ができるようになるのか」を毎回明示してほしい。	シラバスに「授業概要」と「到達目標」により、講義の概要と講義を受講することにより到達する目標が記載されていますので、まずはシラバスで講義内容確認し、疑問点があれば担当教員に質問をお願いします。
39	資料p.17の主な「改善点」で挙げられている「速すぎる進度」が当てはまる授業が複数ある。進度が速いにも関わらず、moodleに資料が掲載されていないものがあり、授業についていくことが困難だと感じる。	頂いたご意見については、教務委員会において共有し授業の改善を行いたいと思います。全科目で実施している授業評価アンケートに自由記述欄がありますので、こちらでもご指摘いただけますとありがたいです。

40	<p>授業評価アンケート入力率が、14.15 回目に直接指導したことで上がっているが半数以上は入力しないというデータから、授業終わりに(入力終了)の画面を先生に見せた生徒から退出という形を取るべきだと思います。</p>	<p>『授業改善のための授業評価アンケート』への協力ありがとうございます。本学にかぎらず、授業評価アンケートをオンラインで実施すると（紙媒体での実施に比べて）回答率が低くなることが知られています。これは、回答の有無が授業担当教員にはわからないことが理由のひとつだと思います（本学ではシステムのチェックはできるが、匿名での実施を原則とするため、授業担当教員に学生の回答状況は通知されない）。たしかに回答率が低すぎると、アンケートの結果の信頼性に疑問が生じます。そのため、様々な方法でアンケートへの回答を促す必要が出てきます。一方で、強制力をもって回答をさせた場合、（面倒だと感じた学生による）いい加減な回答が増えてしまい、結果として信頼性が損なわれるおそれもあります。ご指摘の方法は、回答率を高めるには非常に効果的だと思いますが、結果の信頼性を保ちながら回答率を高めるには、その趣旨を大学や授業担当教員が繰り返し説いて、学生の主体的な協力を期待するのが最善であると考えています。</p>
41	<p>先生方の講義は非常にわかりやすく学ぶ上でとても快適な環境だと思います。しかし、意見に上がっているようにプレゼンが少し早く板書が追いつかないといったことを何度か経験している生徒もいます。生徒の板書の進み具合を今一度確認していただくと共に、生徒の板書のスピードをもっと早くする指導を行っていただくことが必要なのかと思います。</p>	<p>教員に向けては、再度周知していきたいと思いますが、授業アンケートに記載して、担当教員にお知らせください。</p>
42	<p>「教員の声が聞き取れない」という意見に賛同する。マイクを持って講義をしてきているものの、マイクが口から遠くほぼなにも聞こえない。改善してほしい。</p>	<p>声が聞き取れない場合は教員に申し出てください。なお、頂いたご意見については、教務委員会において共有し授業の改善を行いたいと思います。</p>

43	<p>科目数が多いためすべて回答するには、正直なところ中々骨が折れる作業であると感じてしまいます。回答は試験期間のため、その時間を学習時間に使いたいと思う人もいるのではないかと思います。しかし、アンケートの結果をもとにフィードバックすることが学生の学習意欲向上につながることも理解しました。なるべくアンケートの手間を少なくし、且つよりよい学修を目指していけるような方法がないか熟考する必要があると考えます。</p>	<p>『授業改善のための授業評価アンケート』への協力ありがとうございます。授業評価アンケートへの回答は、原則として14回目または15回目の授業内で5～10分間の回答時間をとって行なうよう各教員に依頼しています（回答の便宜と回収率向上のため）。もし授業時間外での入力を求めているケースがあれば、当該授業名および担当教員名をお知らせください（オンデマンドなどの時間割外の科目を除く）。当該教員に対しては、厳に改善を要する旨を伝えます。また、質問項目は確かに多いと思います。一方で、授業評価アンケートは、[実施依頼（大学から教員）] → [周知と回答時間の確保（教員から学生）] → [アンケートに回答（学生）] → [集計結果のフィードバックと授業改善プランの提出依頼（大学から教員）] → [授業改善プランの作成・提出（教員から大学）] → [プランの遂行（全教員）] → [次年度のアンケート結果による改善結果の評価（教員・大学）] という流れで授業改善に活用されています。特に、改善結果の評価を行なうためには、毎年の質問項目を固定する必要があります。そのため、質問数を（大きく）減らすのは難しいというのが実情です。なお、現在の質問項目は制度導入時（当時はマークシート方式）および現行のオンラインシステムへの移行時に、当時の担当委員（たち）が十分に検討したものがベースになっており、内容において概ね妥当であると考えています。なお、回答の負担軽減のため、少人数の授業を対象から除外するなどの方法を検討したいと思っています。本学の教育サービス向上のため、今後とも授業改善の取り組みへの協力をお願いします。</p>
44	<p>家庭学習をする人が少なく、学習意欲を高めるために家庭学習用にプリントやテキストを作成し、必要とする生徒に配布するとよいと思いました。</p>	<p>シラバスに家庭学習の内容と目安時間が記載されています。内容にご不明な点がございましたら、担当の先生にご相談下さい。</p>
45	<p>履修登録時に確認したシラバスと実際の授業内容が大きく異なる場合がある。特にグループワークの多さなど、事前に記載されていない内容で困る学生もいる。</p>	<p>授業はシラバス通りに実施する必要がある、まず担当教員に問い合わせをしてください。ただ、やむを得ず内容を変更する場合は、事前に学生に説明・了承を得た上でシラバスを変更するようにしているし、これからもそうしていくことが重要だと考えています。</p>

46	<p>授業評価アンケートの回答率向上のため、最終授業（15回目）終了時に時間を設けてその場で回答できるようにしてほしい。回答を「やっておいて」と任せただけで放置されることがあるため、時間内に実施する形が望ましいと思う。</p>	<p>授業評価アンケートは原則として14回目、15回目の授業時間内に実施するよう先生方に依頼しているが、先生によって対応に差があるようであるので、今回の意見を踏まえ、全体で統一した認識を周知していきます。</p>
47	<p>授業評価アンケート上での質問や意見に、教員から直接回答があると有難い。</p>	<p>学生の意見は真摯に受け止め、必要に応じて回答することや対応することを学部として徹底していきます。</p>
48	<p>アンケート回答率は上がっているものの、周囲では形式的に終わらせる人が多く、真剣に答える人が少ないと感じる。教員はこの状況をどう捉えているか伺いたい。</p>	<p>授業評価の結果を教員は真摯に受け止め、改善プランを作成して次の学期に反映しています。ただ、学生にはその過程や反映状況が十分伝わっていない現状があるため、今後は、教員の取り組みが学生に伝わるように工夫し、学生が安心して真剣にアンケートに回答できるように改善を検討していきます。</p>
49	<p>講義で使っている iPad の e-テキストと先生作成の資料が一致しないことがある。看護学部では短時間で多くの内容を学ぶ必要があり、ペースについていけない学生もいるので紙媒体でも資料を提供してもらえると理解が進むので、検討をお願いしたい。</p>	<p>今後は可能な限り紙媒体で配布し、難しい場合は moodle 上に掲載してしばらく消さないようにする。学生が困らないよう、検討と改善を進めていきます。</p>
50	<p>私のゼミでは、回答していない学生には個別にメールで通知が届き、回答漏れがあることを確認できる仕組みになっている。そのため、学生は未回答であったことを認識し、確実に回答することができる。しかし、他の学部・学科では同様の対応がなされていない場合もあるようである。すべての授業で個別対応がなされれば、回答率はほぼ 100% に近づくとと思うがどう考えているか。</p>	<p>先ほども述べた通り、アンケート対応には様々な方法があります。厳しく追及する先生もいれば、個人の性格やプライバシーに配慮しつつ対応する先生もいる。そのため、適正な方法を検討していきます。</p>

51	ロジカルシンキングの教科書だが、実際に読んで有用性を感じたため、ゼミなどでの活用をさらに増やしてほしい。	国際経営では独自テキストと基本的な大学授業用テキストを並行して使用している。学生からは内容が分かりづらい、またロジカルシンキングの活用が不十分ではないかという意見もあります。この点について教務担当の教員が学生に説明しているものの、まだ十分に理解されていない部分がありますが、学科で再度議論し、学生に適切に伝えられるようにしていきます。
⑥「2024年度科目GPによる成績分布表（学科別集計表）及び成績分布表（授業科目別分布表）」について		
52	「優しすぎる科目」と「厳しすぎる科目」のバランスを見直してほしい。	成績評価に関する検証を毎年行っており、検証結果を受けて改善していますが、全科目について授業評価アンケートの際に皆さんの意見をお聞かせください。
53	「微生物学」と「微生物工学」を同時期に開講しているため、「微生物工学」に対する学生の理解度が明らかに低くなっているため開講時期をずらすべきではないか。	来年度から、「微生物学」の後、「微生物工学」を履修するように調整します。
54	短大の3つの科はあまりGPAに格差がないが、4年生大学の方だと、少し差があります。やはり生徒のやる気の違いが各学科によって違うのかと思います。生徒自身の勉強に対するやる気を引き出させるような活動をもっとするべきだと思いました。	本学には、教員免許、学芸員、司書等様々な資格や免許が取得できるため、将来を見据えて資格等取得にチャレンジするのも良いと思います。また学科ごとに様々な専門的なゼミ活動や郊外活動を実施しています。もし具体的な要望案等がございましたら、気軽に担当の先生にご相談下さい。

55	<p>食物栄養学科では失格・欠席者は他の学科に比べて少ないものの、Fの者が多いため改善の余地があると考えます。</p>	<p>食物栄養学科は管理栄養士養成課程であり、受験必須科目は国家試験受験レベルの学習到達目標となっています。F評価はこのレベルに達していないことを示しています。また評価方法は絶対評価であり、他学生の成績に影響されることはありません。そこで確実に履修をすすめるには、日々の学習の積み重ねが重要です。文部科学省では、講義科目の前後に4時間の自主学習が定められていますので目安としてお考えください。あわせて、科目内容で理解が不十分であった内容についてはそのままにせず、担当教員に早めに質問して解決することが望ましいです。大学は高等学校までと異なり主体的な学びの場です。教員は随時相談を受けますので、自分にあった学びを深める方法を考える機会としてください。</p>
56	<p>失格や欠席が意外と多く、生徒の意欲向上が必要かと感じました。</p>	<p>授業の欠席回数を把握し、教員面談により学生さんのモチベーションあげるよう対応していますが、再度、教員に周知し学生の皆さんの意欲が向上するように取り組みたいと思います。心の悩みについては、学生支援センター等とも連携してケアしていきたいと思えます。</p>
57	<p>ほとんどの授業での成績に納得しているものの、一部の授業で全回出席し授業を受け、課題も提出したにもかかわらず評価が芳しくなかったケースがある。周囲の学生も同様の評価を受けており、多くが不満を抱いている。</p>	<p>まず担当教員に評価の理由を尋ねることが推奨される。また、シラバスには評価方法が明記されており、その内容と照らし合わせて納得できない場合は、教務課に申し出ることによって再確認や対応が可能な体制が整っています。教員も人間であるため、まれに評価の誤りが生じることもあるので、その際には教務課への相談をお願いします。</p>

58	科目 GP による成績分布表を見ることで、自分がどの成績ランクに位置するか、またそのランクの人数が把握できる。もし、可能であれば、成績配布時にこの成績分布表も併せて配布すると、各科目の受講人数や評価も分かるため、有益であると思う。特に給付型奨学金においては、学科内の GPA 順位が重要になるので、その点でも有益な情報として使えると思う。	教務委員会等で配布が可能か検討します。
59	昨年後期に受講した授業にて、教員のミニテスト(試験に直結)のアップロードが遅かったため、十分に勉強することができず、成績が低くなってしまった。もう少し早めにミニテストをアップロードできるよう配慮してほしい。	教授会等何らかの形で教員に周知していきます。
⑦「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を踏まえた意見や要望		
60	オンライン教材やeラーニングの活用を推進し、学生が自分のペースで学べる環境を整えてほしい。	社会人が新たな知識・スキルを修得する際の主要な方法がeラーニングにシフトしつつあります。そのような社会変化に対応する能力を在学中に身につけてもらうためにも、オンライン授業を拡充していきます。
61	このプログラムは内容が幅広く、最初は少し難しく感じました。特にプログラミングやデータの扱い方など、初めて学ぶことが多くて、ついていくのが大変でした。	プログラム内容はモデルカリキュラムに準じており文部科学省の認定を受けています。最初は難しく感じることもあるかもしれませんが、困難を乗り越えて、新しい事に適応する力を磨いてください。
62	非理系の学生にとっては、数学やプログラミングに苦手意識を持っている人も多いと思うので、もっとわかりやすく、実生活や自分の分野と結びつけやすい内容があると、より興味を持てると思います。	わかりやすさや実生活との関連については、さらに改善をしていきます。また、メールやアンケートなどを利用して、授業を担当している教員に「こんなことを学びたい」と気軽に意見を聞かせてください。
63	今後は、もっと実践的で、例えばアプリ開発やデザインとの連携など、他の学問とのつながりが感じられる授業が増えると嬉しいです。	前向きな意見をありがとうございます。これからの社会では文系・理系に限らず分野横断的にデータサイエンスやAIを活用できる人材が必要になると言われています。別府大学でも「AI・データサイエンス実践」の授業に

		<p>においてアプリ開発の基礎に取り組みますので、関心があればぜひ履修してください。</p>
64	<p>「数理・データサイエンス」で購入した教科書を授業内で使うことがほとんどなかった。</p>	<p>担当教員間で協議し、教科書をしっかり活用するように改善します。もしかすると、教科書を見る必要が無いくらいに授業資料や映像資料を丁寧に作成しすぎていることが原因かもしれないので、授業資料と教科書のバランスも考慮していきます。</p>
65	<p>数理データサイエンス・AI教育プログラムの科目を履修しても、学科などで実践することがほぼないので学生はその学びを活かせず忘れてしまっているのではないか。</p>	<p>リテラシーレベルの科目（情報リテラシー、数理データサイエンス入門）は1年次で履修が終わってしまっていますが、さらに学修を希望される学生には応用基礎レベル科目（7科目）を準備しています。専門科目としては「AI・データサイエンス実践」1科目のみの開講となっているため、今後に向けて専門科目におけるデータサイエンス科目の拡充を検討します。</p>
66	<p>社会に出る前に生徒のリテラシーレベルをあげるために段階を踏んで身につけておくべき能力を獲得する上でとても大切だと思います。</p>	<p>仰るとおりです。社会での業務だけでなく、通常の社会生活や新たな知識・スキルの獲得など、あらゆる場面で数理・データサイエンス・AIの能力が必要になると考えられており、小中高の教育内容も常に更新されています。大学においてもAI等のスキルの重要性を学生に周知するとともに教育内容のレベルを上げていきます。</p>
67	<p>もっと学生にパソコンに触らせる機会を増やすべきだと思います。</p>	<p>数理・データサイエンス・AI教育に限らず、多くの講義・演習でパソコンを活用する場面を増やすように取り組んでいきます。</p>
68	<p>オンデマンドの授業にあたるため、これは自主性によるものである。そのため、友達をうまく利用してすり抜けている人もいるらしい。</p>	<p>友人の力を適切に借りることは良いことですが、程度が過ぎると知識・スキルが身につかず大学で学ぶ意義が失われます。オンデマンド授業において学生各自の取組かどうかの確認方法を改善するとともに、学生同士が節度ある助け合いを意識できるような雰囲気を作っていきます。</p>

69	IT パスポートを取得すると単位が貰える点はもっと周知してもよいと思う。	文学部、食物栄養科学部、国際経営学部は単位認定の制度が整っています。看護学部や短期大学部においても単位認定に向けて検討し、より多くの学生に資格取得を推奨していきます。
70	まだ後期の数理・データサイエンス入門の講義が始まっていないので見て感じたことになりましたが、Python プログラミングなど、数理・データサイエンス入門という項目は教職をとる初等教育科にとっての必修であることに対してなぜ必要なのだろうと疑問に思いました。	急速な社会変化に対応するため、政府は文系・理系にかかわらずあらゆる分野の全大学生の素養として数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを位置づけています。また、小学校～高校でもプログラミング教育が必修化されており、2024 年からは大学入学共通テストで「情報」が出題されています。今後の社会変化と子どもに必要なスキルを考える教職関係者こそ数理・データサイエンス・AI 教育を学んでほしいと考えています。
71	数理データサイエンスの授業で教科書を購入したが、一度も使用せずに終わった。購入を必須とするなら活用してほしい。	動画で丁寧に説明しすぎると教科書を使わなくても課題ができてしまう一方、教科書を参照させるだけでは不満も出るため、対応が難しい。今後は不公平感が出ないよう教材作成に工夫し、後輩に向け改善していきます。
72	数理データサイエンスについて、希望者向けの応用より、基礎的な学びを充実させてほしい。上級学年になって理解が不十分な学生もいる。	基礎レベルの Office 活用や資格取得など情報系科目の選択肢拡充の要望が学生の間で高まっていることは把握しています。一部の学科で、IT パスポートやプログラミングの授業等が開講されているが、全学的には不十分であり、今後は学生の要望や社会的要請も踏まえて基礎的学びの充実を検討していきます。
73	情報リテラシー講義に加え、SNS の適切な使い方についても指導してほしい。	SNS 利用の注意点は授業でも扱っているが、時間の都合で簡潔な説明に留まっています。炎上など大きな問題につながる可能性もあるため、教材や内容を工夫し充実を図るために、小中高での教育状況も踏まえつつ、大学での対応を検討していきます。

⑧その他 大学への意見・要望等		
74	図書館で本を「聴ける」仕組み（オーディオブックのような朗読サービス）があると便利だと思う。	新しい読書方法として興味深い意見だと思います。図書館側にも共有し、検討していきます。
75	留学生の外国語の必修科目の取り方が分かりづらい。時間割や開講科目にもわかりやすいように書いていない。	日本人は英語、留学生は基本的に日本語を外国語の必修科目として設定しています。ただ、開講科目や時間割、学生生活等の表示の仕方を工夫し、留学生も理解しやすい形を検討していきます。
76	亀川キャンパスのカフェテリアは食事の販売がなく、持参したものを食べるだけの施設になっている。周囲に飲食店も少ないため、自動販売機などで食事や飲み物を購入できる設備があると便利ではないか。	亀川キャンパスでの食事提供については、看護学科の学生数が少ないため業者に断られることが多い。自販機やキッチンカーの導入も検討中だが、ルールや条件の関係で実現が難しい場合もある。パンや弁当の提供もあるが限度があり、価格や予約方法の改善も模索していますが、今後、学生数の増加に伴い業者も対応しやすくなる可能性があるため、引き続き改善に努めていきます。
77	学内献血の告知が一部の棟に限定されており、全学生に十分届いていない。献血に必要な事前準備（食事・睡眠・水分補給）も周知が不十分である。ポータルサイトやメールで1週間前・前日に告知できるよう改善してほしい。	献血の案内は学生課から行っているが、もっと多くの学生にも届く方法やポスターでの告知など、周知方法の改善を検討していきます。
78	教員採用試験と期末試験が重なる場合、採用試験を優先すると期末が追試(期末後に実施)扱いとなり、万一追試を落とすと再試験を受けることができないと思うので、何とかしてほしい。	大学の食物栄養科学部では追試を落とした場合に再試験を受けられるようになっているが、大学の他の学部や短大はそこまで整備はされていないので、確認の上、対応を検討していきます。

79	<p>他学部・学科の学生や教員と気軽に意見交換できる機会がもっとあるとよいと思う。</p> <p>堅苦しい場でなく、気軽に交流でき、意見を学校改善につなげられるような場があれば、望ましい。</p>	<p>他学部・学科との交流機会について、増やせるよう検討していきます。学部学科横断で意見交換できる場合は、大学主催の企画やサークル、課題活動、学会、学園祭などでも実施可能ではありますが、課題について議論したい場合は、学生が主体となって自発的にグループを作り、学生サミットや学術フォーラムを行うことを大学としても支援します。こうした活動を増やすことで大学の活性化につながると考えています。</p>
80	<p>喫煙場所が設置されておらず、駐輪場や周辺で喫煙する人が多い。大きな喫煙所を設けることで、喫煙者も非喫煙者も過ごしやすくなると考えているが、大学側はどう考えているか。</p>	<p>大学では禁煙教育を推進しており、喫煙所は撤去しています。各学科でも禁煙教育を実施し、近隣への配慮として看板設置や職員の見回りも行っているが、学内では喫煙を認めない方針で今後も継続します。</p>